

結女だより



2021年4月1日発行

©企業組合ワーカーズ・コレクティブ結女

西東京市泉町3-15-28

電話042-425-3800

暖かくなりました

デイサービスの建物のまわりも、桜が咲いています。向かいの畑も春の畑仕事が始まっているようです。少しずつ毎日、身体のあちこちを動かしてみましよう。お散歩にはもってこいの季節となりました。

西東京市には、季節に合わせた4つの市の花があり、春の花は「つつじ」だそうです。

畑の脇や遊歩道などで、つつじやお茶の木を見ることができます。かつては市内でもお茶の生産が盛んで「保谷茶」というブランドまであったそうです。

ふたつの木は土埃を防ぐ役割も担っていたそうです。お散歩に出かけた時など、つつじとお茶の木を探してみてください。

コロナ対策を取りながら春を存分に楽しみましよう。

《四月 受け継ぐ》

4月と言うだけで、新しいことが始まっていく感じを覚えます。

今年もコロナの中、入学式や入社式など、工夫を凝らして行われるようです。

3月から4月にかけて、卒業や別れ、出会いや新生活の始まりがあちこちでみられます。それは、人の思いを様々に受け継ぐ機会でもあるようです。

皆様にとって新しいスタートが、実りあるものがありますようにお祈りしています。

4月の献立には、桜ご飯や春野菜の煮物など取り入れています。

地場の春野菜も楽しみで、春の力をいっぱいいただきましよう。

〔ひとことコラム〕



お昼ご飯を食べながら出てきた話を 少しご紹介します

入園、入学、入社式や職場の人事異動等が続く4月。新しい環境で生活がスタートする方も多く、始まりの季節ですね。また、南から桜前線が日本列島を北上する時期でもある4月は、各地の桜の名所ではきれいな桜が咲くことでしょう。コロナ対策でお花見も自粛なのがとても残念です。



《お弁当の話》

半世紀ほど前、街の中学に越境入学しました。全校100人足らずの小学校から、いきなりひと学年43人が7クラスもある中学への入学は、新しい体験の連続。脱脂粉乳の給食から弁当持参もその一つ。弁当の中身もびっくりするほど様々でした。祖母が欠かさず作ってくれた私のは薄茶色の煮物、酒入の甘い卵焼きが定番。アルマイト製弁当箱で新聞紙に包まれていました。忘れられない衝撃的弁当は、焼いためざし一本きりの弁当、きれいなサンドイッチ弁当です。中学生ながら、弁当から生活の違いを感じたものでした。

4月29日の国民の祝日、昭和の日はゴールデンウィークの始まりとなることが多い記念日です。元々は昭和天皇の誕生日でしたが、年号が平成になってからは名前がみどりの日となり、その後2007年以降昭和の日となりました。因みに、2007年から4月29日が昭和の日になってからは、国民の休日だった5月4日がみどりの日という風に名称が変更され、現在のそれぞれの記念日の呼び方で定着しています。

イースター（Easter）は英語での呼び方で、日本語では「復活祭」と言います。つまり、イエス・キリストの復活を記念する日。キリスト教になじみのない家庭でも、近年ではかなり身近な存在になったといえるイベントです。イースター自体をよく知らなくても、この時期になると街中でも、パステルカラー、カラフルな卵の装飾、うさぎ・といった装飾が見られるようになってきますね。